

囲碁入門講座通信 令和 2 年 第 13 号



報告:有楽斎

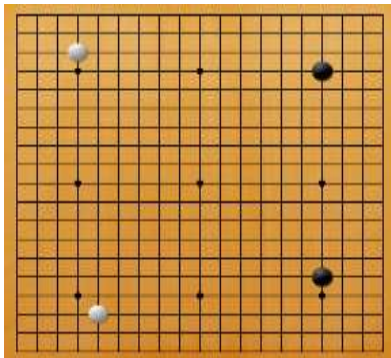
毎月第二日曜日の午後 1 時半から午後 4 時ごろまで、朝日 2 丁目集会所で「囲碁入門講座」に、それなりに一所懸命取り組んでいるのですが、新型コロナウイルス感染を防ぐために、「三つの密」密閉・密集・密接を避けがたく、まことに口惜しところですが、**現在休局中です**。(棋士名は碁に因んだ名をニックネームとして表記しています)

今号も、入門者用に囲碁用語を少々ご案内したいと思います。(監修:太神楽(だいかくら)師匠)

囲碁用語 第一手目は右上隅から 碁盤のエリアの名称 着点の名称について

碁は、どこから打ち始めてもよいのですが、理論的にも経験的に隅から打っていくのが得だと考えられています。理由は単純です。隅は 2 方向を囲うだけで地ができますが、辺は 3 方向、中央は 4 方向を囲わなくてはならないからです。アマプロを問わず 99% 以上は隅から打ち始めます。**黒の 1 手目は(先手から見て) 右上隅に打つのが慣例となっています**。礼儀とまで言えるかどうかはわかりませんが、碁は四方どこから見ても石の相対的な位置関係は同じです。わざわざ他の隅から打ち始める理由は見当たりません。棋譜を作成する上でも、常に右上から始まるほうが見やすく、美しいものです。

碁盤のエリアの名称 碁盤の大まかなエリアを表わす用語として、右上隅、右下隅、左上隅、左下隅、上辺、下辺、右辺、左辺、中央の 9 つがあります。**着点の名称** 碁は互いに 4 隅から打ち始め、次に辺に展開し、だんだん中央への戦いへと発展していくのが普通です。隅に先着する場合、特殊な作戦を除けば、打つ場所は次に説明するように**星、小目、高目、目ハズシ、三々**の 5 力所に限られます。



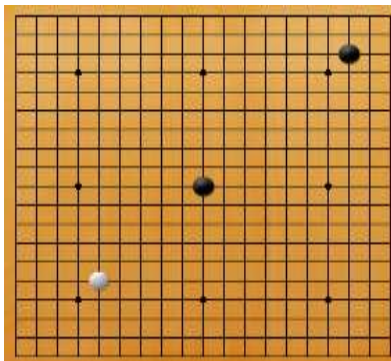
(上図)

星(右上・黒) 縦横の交差する線上に 9 つ印がついてある地点を「星」と呼びます。星はアマプロを問わず最も多く打たれます。

小目(左上・白) 星の位置から 1 つ隅にズレた位置が小目(コモク)です。星と並んでよく打たれます。

高目(右下・黒) 星の位置から 1 つ辺の方向にずれた位置が高目(タカモク)です。辺から中央への発展を重視した打ち方です。

目ハズシ(左下・白) 星の位置から斜め下にずれた位置が目(モク)ハズシです。高目同様に中央志向ですが、難解な大型定石に発展しやすいのが特徴です。



(下図)

三々(右上・黒) 最も堅い打ち方ですが、中央への発展性に乏しいのが欠点です。

5の五(左下・白) 特に名前がないので、盤面の番地を示す記号がそのまま名称になっています。他の隅や辺、中央との関連性で打つ特殊な打ち方です。なお、左下の「5の五」は棋譜で表す場合は「5の十五」となります。

天元(中央・黒) 碁盤のど真ん中、星の位置が天元(てんげん)です。第 1 手目に天元に打った一流プロがいますが、あまり真似をするプロはいません。

問題は、初級囲碁講座(無料講座)より引用しました。

月 3 回発行してきましたが、10 日、20 日の月 2 回に変更いたします(誠に恐縮でございます)。次号は 8 月 10 日発行予定です。